

# 宮崎県内経済情勢報告

令和 7 年 1 月



## 財務省九州財務局宮崎財務事務所

〒880-0805 宮崎市橘通東 3-1-22 TEL. 0985-22-7101 (担当. 財務課)

<https://lfb.mof.go.jp/kyusyu/miyazaki/index.html>



この資料は当所ウェブサイト  
に掲載しています。  
九州財務局宮崎財務事務所  
公式ウェブサイト



九州財務局  
公式 X (旧 Twitter)



九州財務局  
公式 Facebook

## 1. 総論

【総括判断】「県内経済は、物価上昇の影響がみられるものの、  
緩やかに回復しつつある」

項目	前回（6年10月判断）	今回（7年1月判断）	前回比較
総括判断	物価上昇の影響などがみられるものの、緩やかに回復しつつある	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある	→

（注）7年1月判断は、前回6年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、食料品工業が横ばいの状況のなか、海外需要の減少などの影響がみられ、電子部品・デバイス工業などが弱い動きとなっており、弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（6年10月判断）	今回（7年1月判断）	前回比較
----	-------------	------------	------

個人消費	物価上昇の影響などがみられるものの、緩やかに回復しつつある	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある	→
生産活動	弱含んでいる	弱含んでいる	→
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	→

設備投資	6年度は増加見込み	6年度は増加見込み	→
企業収益	6年度は減益見込み	6年度は減益見込み	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動などの影響に注視する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある。コンビニエンスストア販売は、堅調に推移している。ドラッグストア販売は、好調となっている。家電大型専門店販売は、緩やかに持ち直しつつある。ホームセンター販売は、緩やかに持ち直しつつある。乗用車新車登録・届出台数は、緩やかに持ち直しつつある。レジャー・観光施設の入場者数及び宿泊者数は、回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 物価上昇の影響により安価な商品の選好や購入点数の減少はあるものの、年末年始の休日が例年よりも長く、家庭で食事を楽しむ機会が多かったことから、おせちや正月向けのオードブルの予約は前年同時期を上回った。(百貨店・スーパー)
- 10月、11月は暑い日が続いていたことから、アイスクリームや飲料の売上げが好調だった。(コンビニエンスストア)
- 買い控えの傾向はあまり見られない。(ドラッグストア)
- OSのサポート終了が近づいているため、パソコンの買い替えが増えているほか、空気清浄機などの季節家電の売上げが好調だった。(家電大型専門店)
- 暖房器具の売上げについては、気温が高かった10月は落ち込んだものの、11月以降、気温の低下とともに伸びている。(ホームセンター)
- 一部では認証不正問題の影響は残っているものの、供給台数は徐々に増加している。維持費が安い軽自動車を選好されている。(自動車業界団体)
- 地震、台風の影響で一時的に観光客の落ち込みが見られたが、その後は好調である。(レジャー・観光施設)
- 10月から12月にかけてスポーツイベントが続いており、観戦客が稼働率を牽引した。(宿泊業界団体)

### ■ 生産活動 「弱含んでいる」

食料品工業が横ばいの状況のなか、海外需要の減少などの影響がみられ、電子部品・デバイス工業などが弱い動きとなっており、弱含んでいる。

- 病害による影響は限定的であるため、生産水準は回復傾向にある。(食料品)
- 物価上昇による消費者の節約志向の影響により、鶏肉需要は引き続き好調を維持している。(食料品)
- 国内外の需要が低下していることから、工場の稼働率は引き続き低く推移している。(化学)
- 海外需要の減少を受け、在庫調整局面が長期化していることから、工場の稼働率は回復していない。(電子部品・デバイス)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率は、このところ横ばいの状況である。新規求人数は、前年を下回っているものの、求人が求職を上回る状況が続いている。

- 業種を問わず外国人労働者の受入れが進んでいるほか、飲食店や小売店においてセルフレジ導入による省人化が進んでいることなどから、新規求人数は減少傾向となっている。(公的機関)
- 製造ラインにおいて慢性的に人手が不足していることから、外国人労働者を増員した。(食料品)
- 観光需要が戻ってきている中で運転手の応募はあるものの、退職者も多いため、人手不足が続いている。(運輸・郵便)

- 設備投資 「6年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年10-12月期
  - 製造業、非製造業ともに増加見込みとなっている。
- 企業収益 「6年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年10-12月期
  - 製造業、非製造業ともに減益見込みとなっている。
- 住宅建設 「前年を下回っている」
  - 新設住宅着工戸数(6年9-11月)で見ると、前年を下回っている。

#### 【その他の項目】

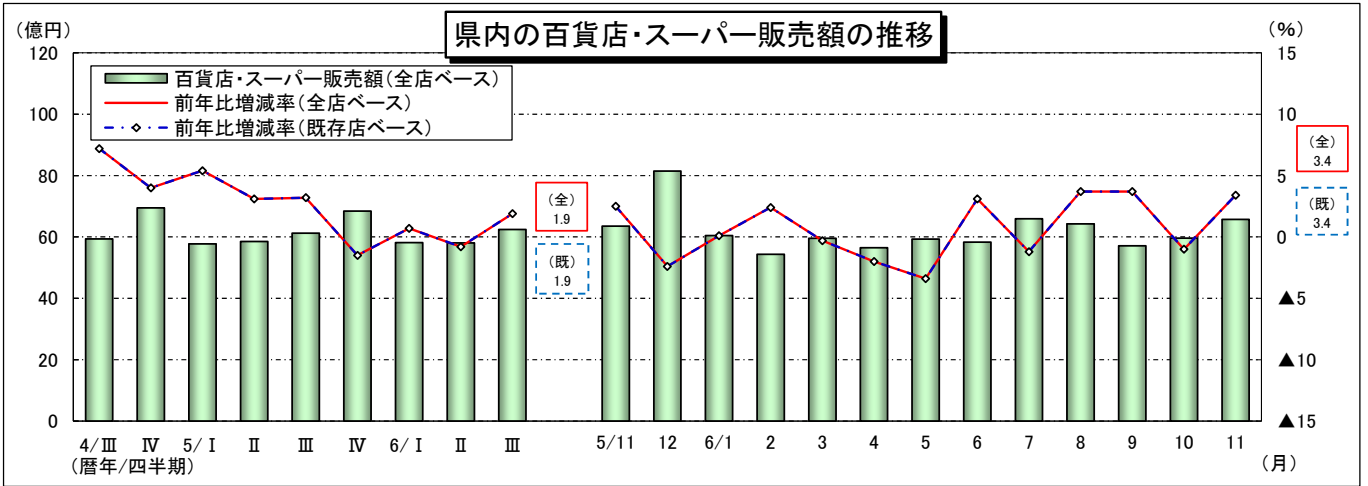
- 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年10-12月期
  - 6年10-12月期の景況判断BSIをみると、全産業では「下降」超となっている。なお、先行きについては、「下降」超で推移する見通しとなっている。
- 公共事業 「前年度を上回っている」
  - 公共工事前払金保証統計の請負金額(6年4-12月累計)で見ると、前年度を上回っている。
- 倒産 「件数、負債総額ともに前年を上回っている」
  - 企業倒産(6年10-12月期)は、件数、負債総額ともに前年を上回っている。

# 参 考 資 料

1. 個人消費 . . . . . 参-1
2. 生産活動 . . . . . 参-4
3. 雇用情勢 . . . . . 参-5
4. 設備投資 . . . . . 参-6
5. 企業収益 . . . . . 参-6
6. 住宅建設 . . . . . 参-7
7. 企業の景況感 . . . . . 参-8
8. 公共事業 . . . . . 参-9
9. 倒産 . . . . . 参-10

# 1. 個人消費

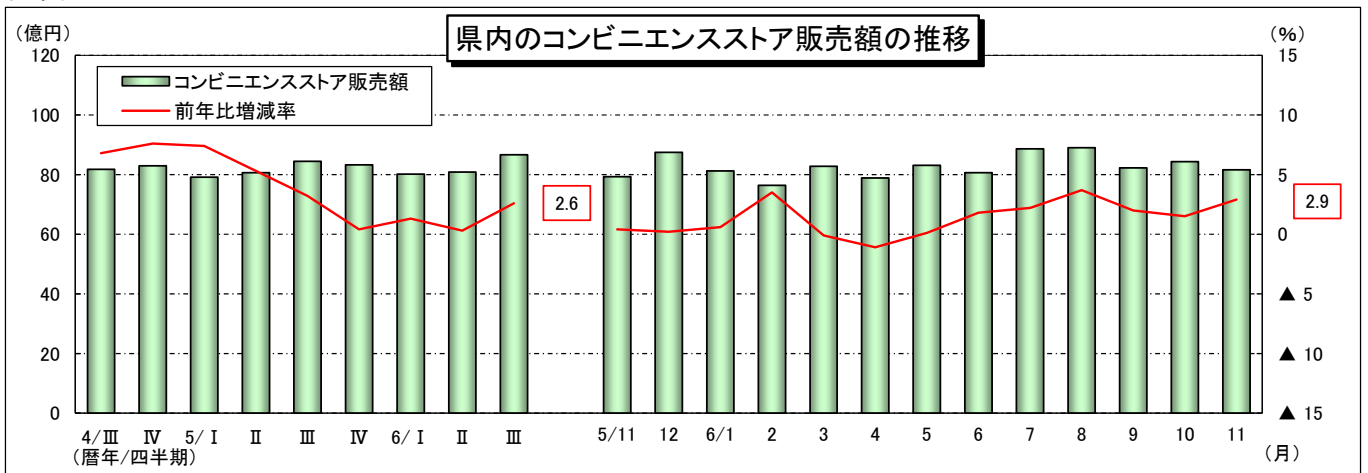
図表1



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：経済産業省]

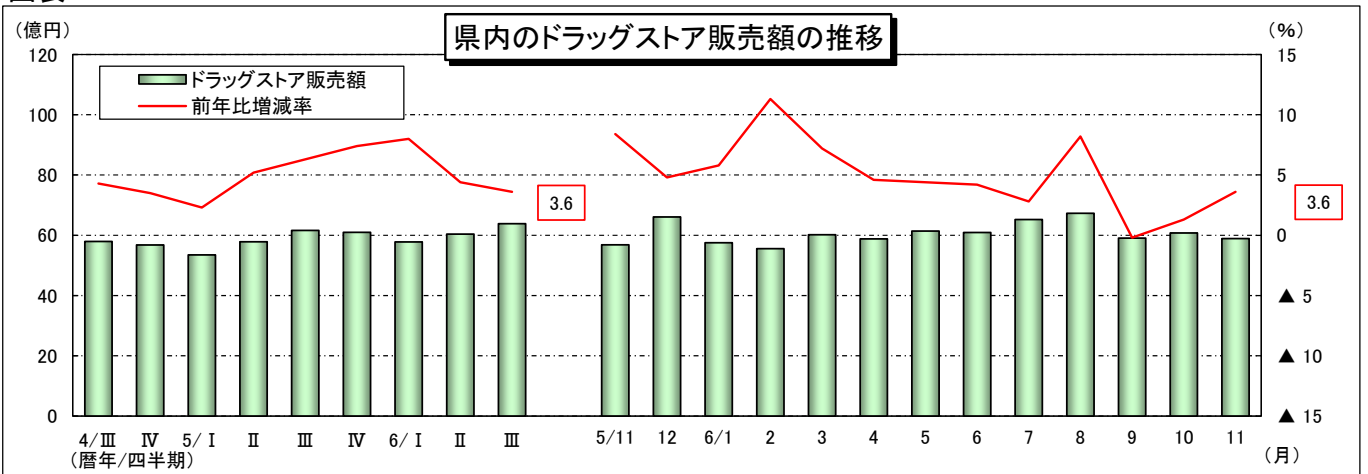
図表2



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：経済産業省]

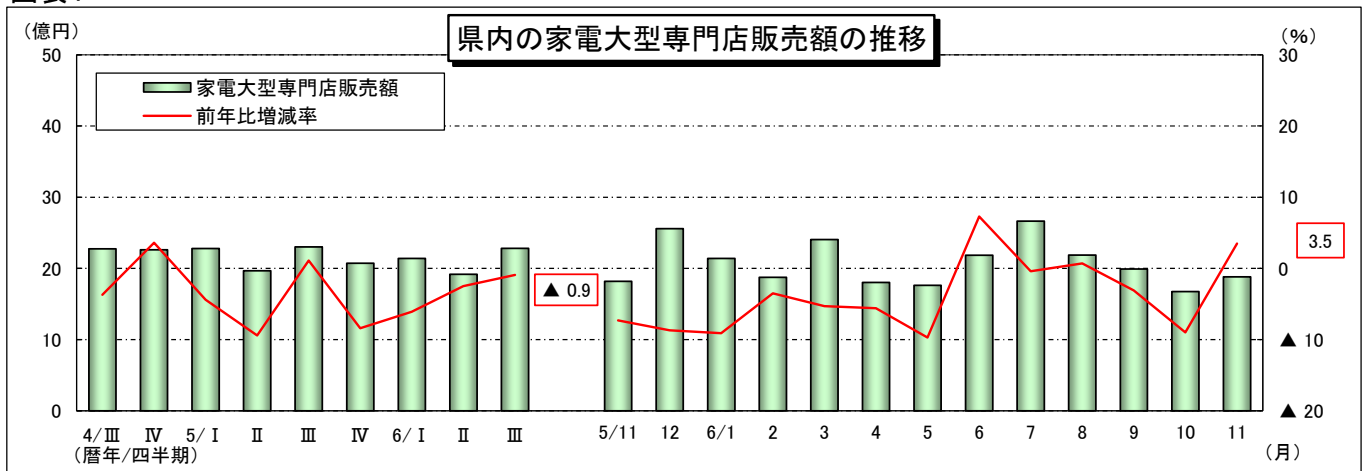
図表3



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：経済産業省]

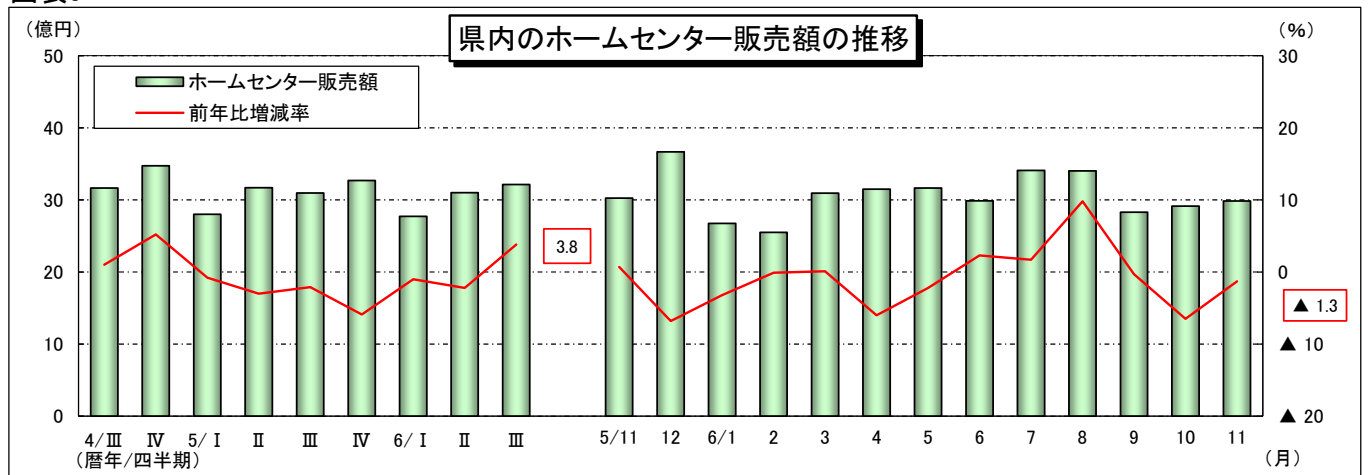
図表4



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：経済産業省]

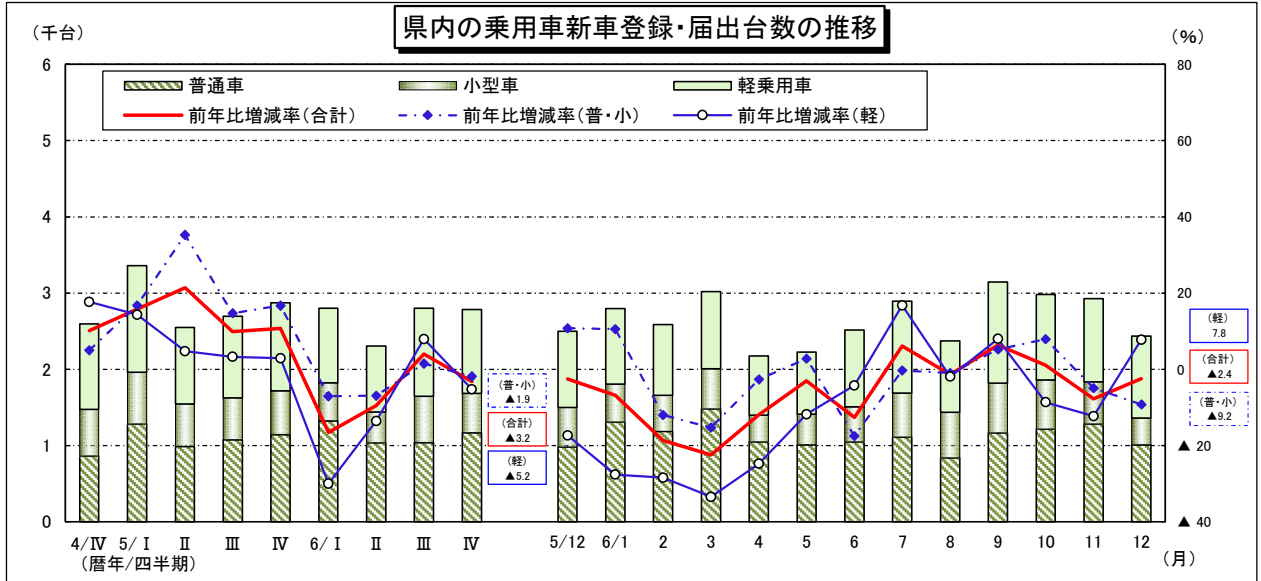
図表5



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：経済産業省]

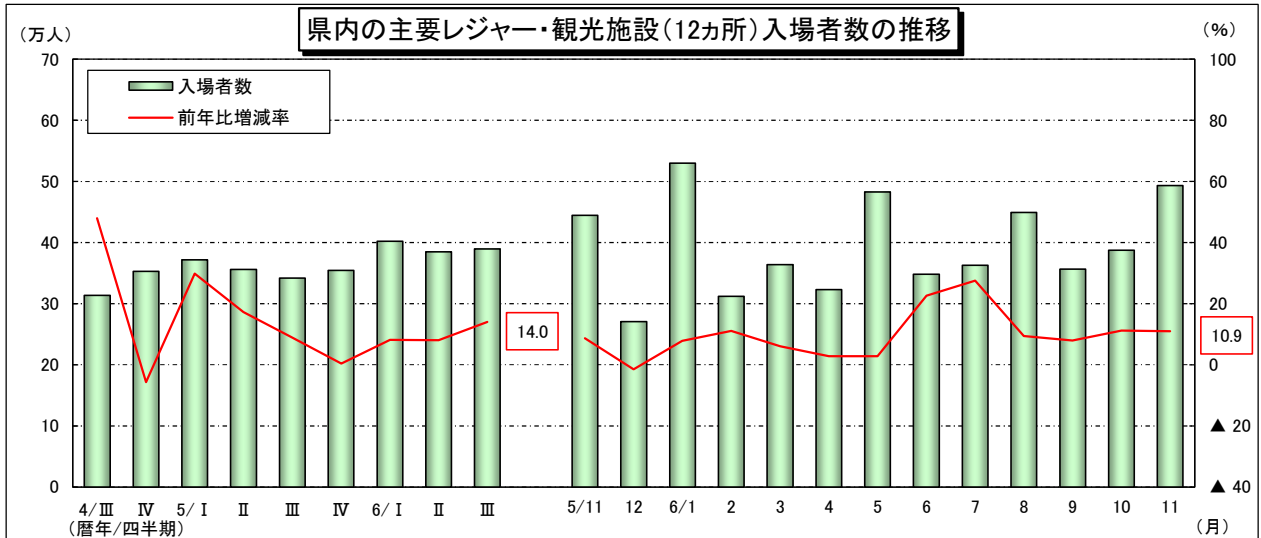
図表6



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会]

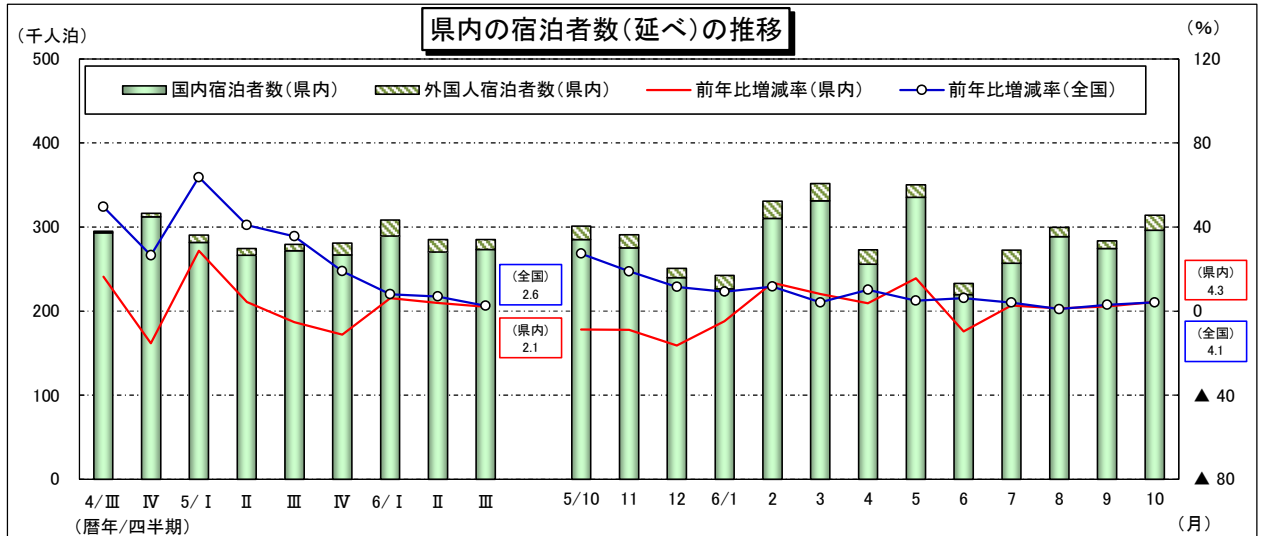
図表7



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：県内主要レジャー・観光施設]

図表8



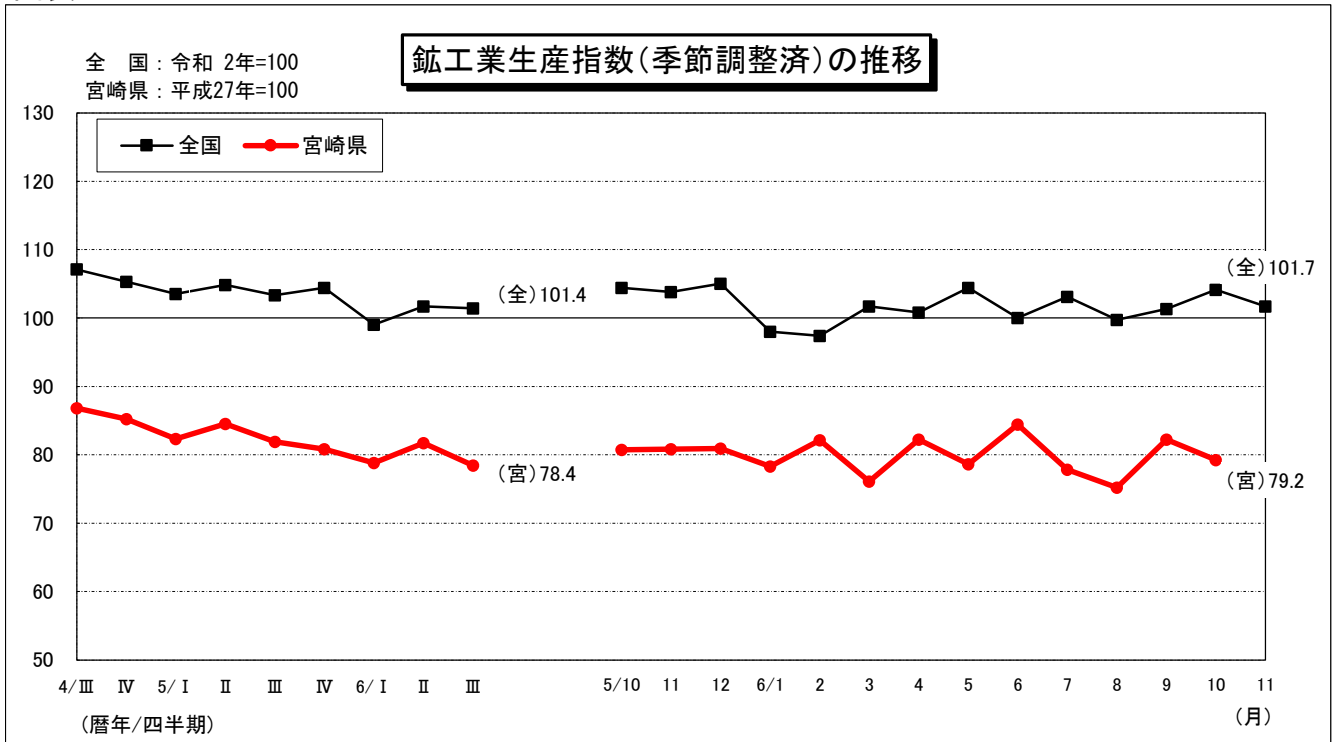
(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：観光庁]

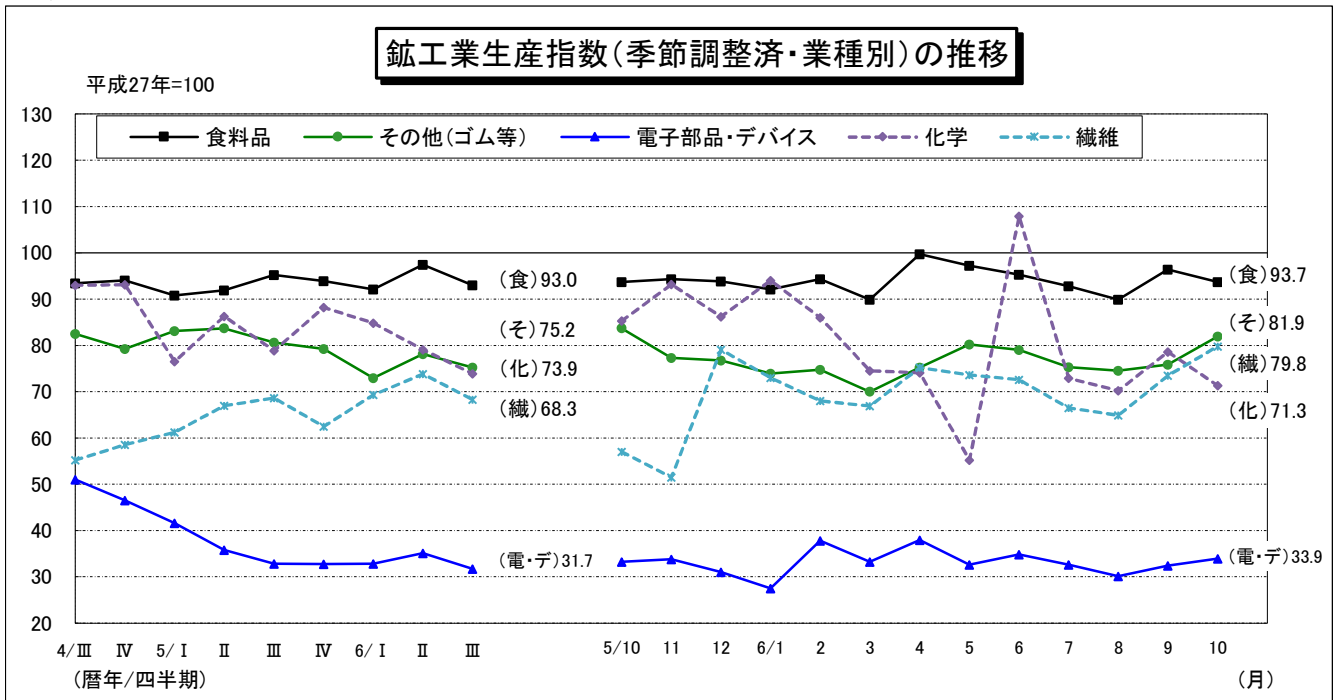


## 2. 生産活動

図表9

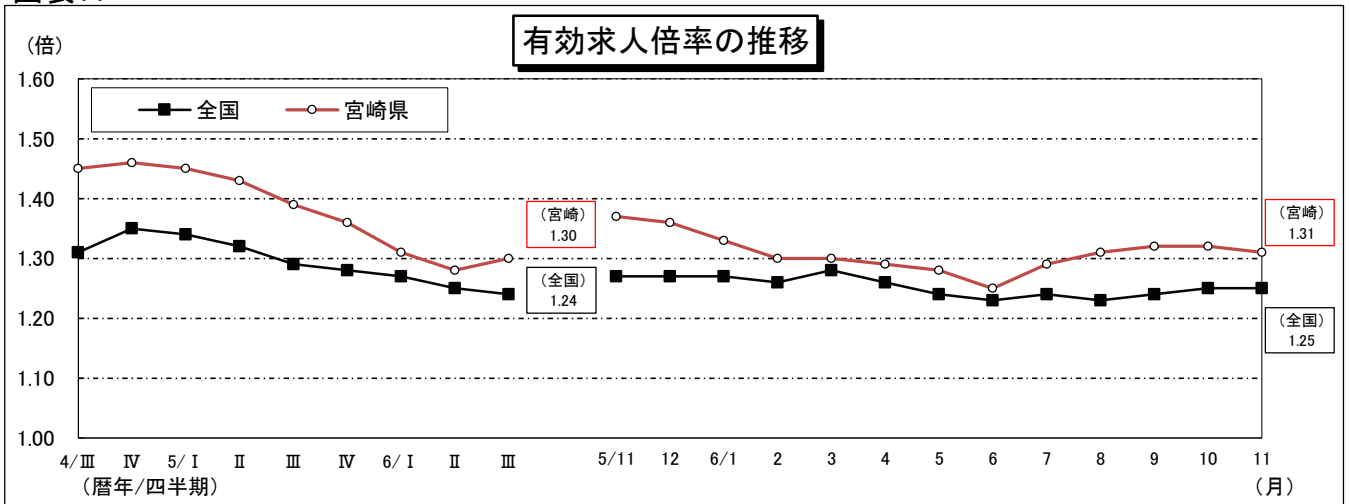


図表10



### 3. 雇用情勢

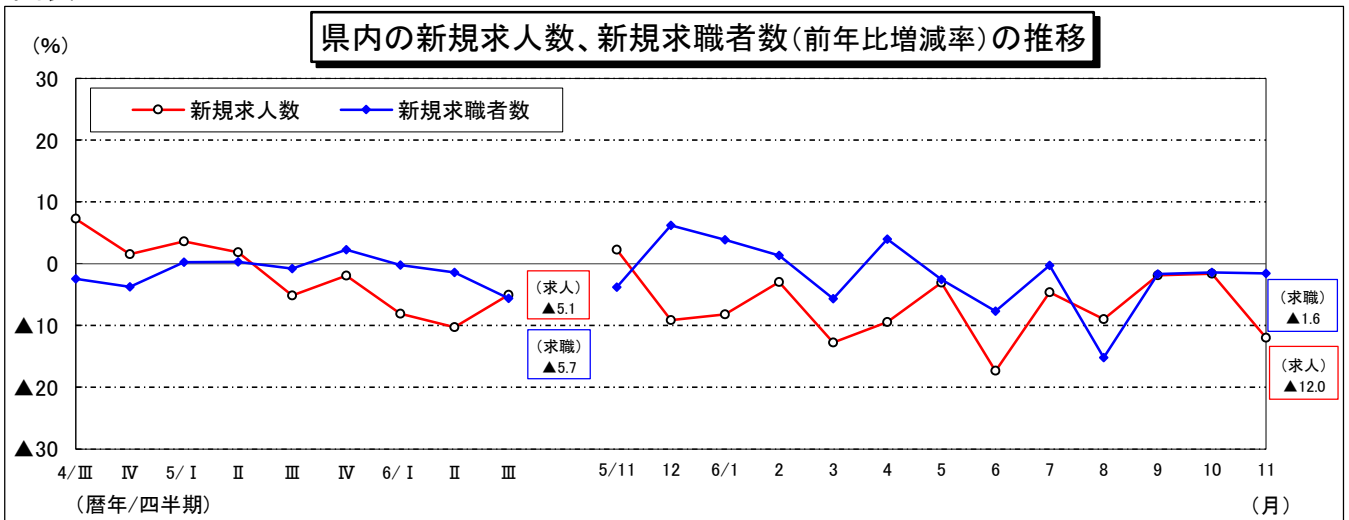
図表11



(注) 季節調整値、パートを含む。

[資料：厚生労働省]

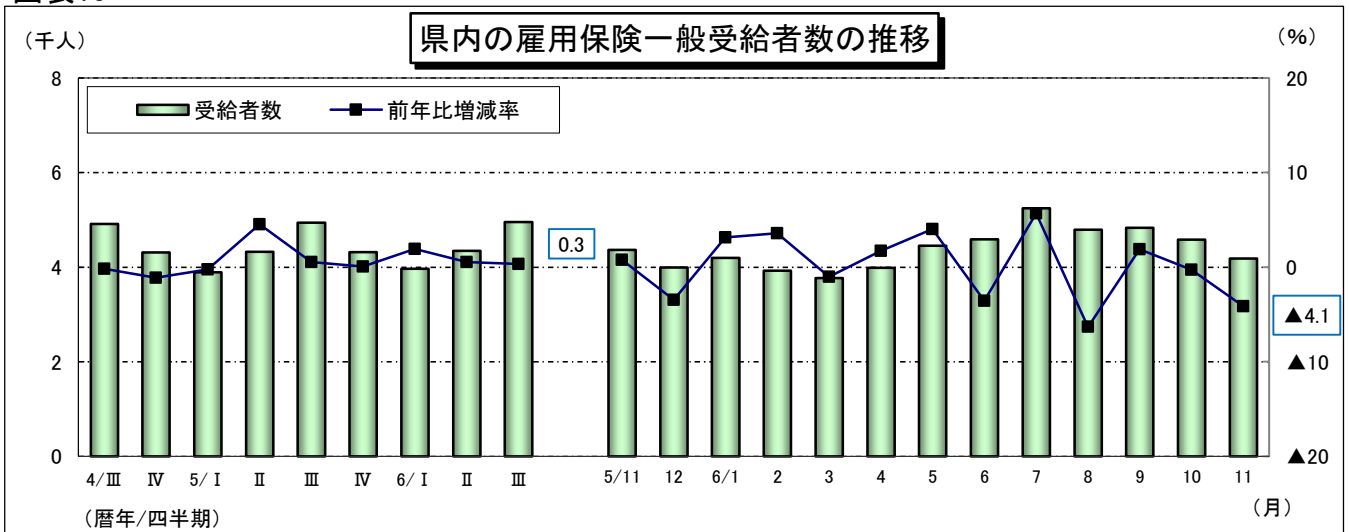
図表12



(注) 原数値、パートを含む。

[資料：厚生労働省]

図表13

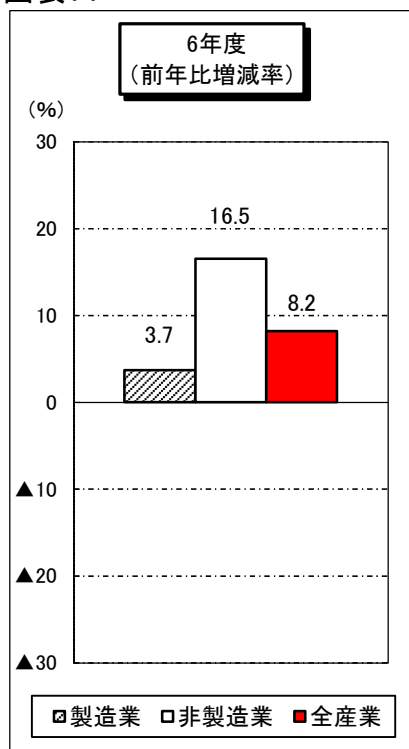


(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：宮崎労働局]

## 4. 設備投資

図表14



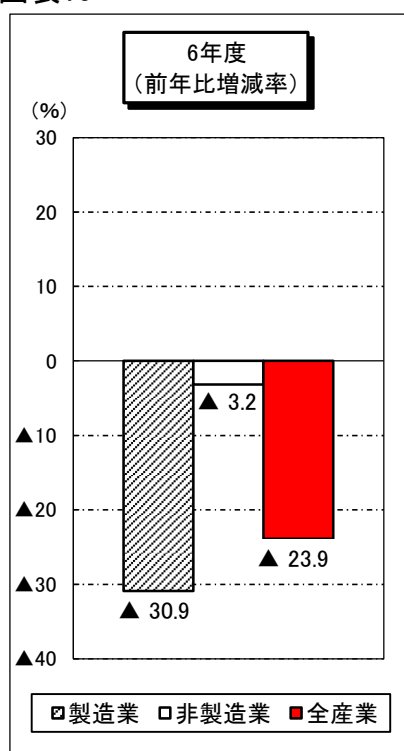
(単位：社、%)

		回答 企業数	6年度 (前年比増減率)
全	産業	74	8.2
	製造業	30	3.7
	非製造業	44	16.5
規 模	大企業	12	2.3
	中堅企業	31	14.5
	中小企業	31	17.8

[資料：宮崎財務事務所 法人企業景気予測調査（6年10-12月期調査）]

## 5. 企業収益

図表15



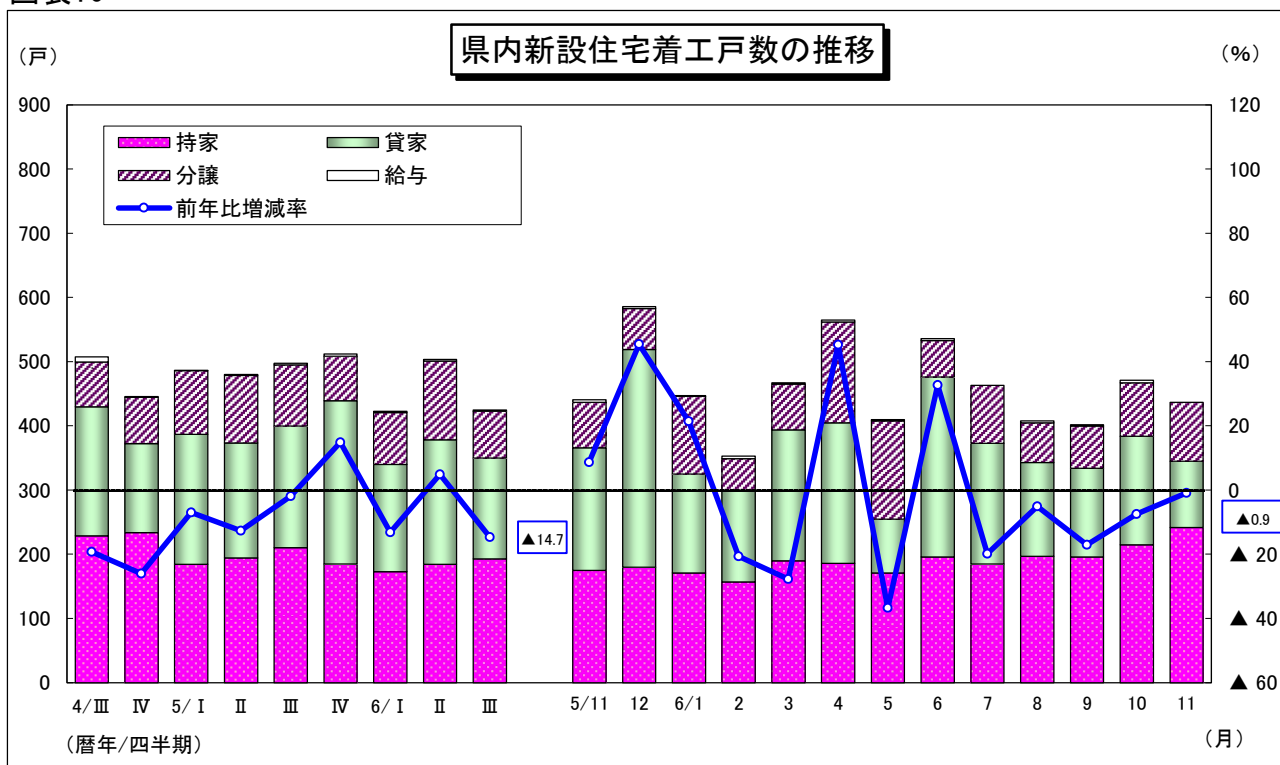
(単位：社、%)

		回答 企業数	6年度 (前年比増減率)
全	産業	66	▲ 23.9
	製造業	29	▲ 30.9
	非製造業	37	▲ 3.2
規 模	大企業	7	▲ 28.6
	中堅企業	30	▲ 18.8
	中小企業	29	▲ 15.8

[資料：宮崎財務事務所 法人企業景気予測調査（6年10-12月期調査）]

## 6. 住宅建設

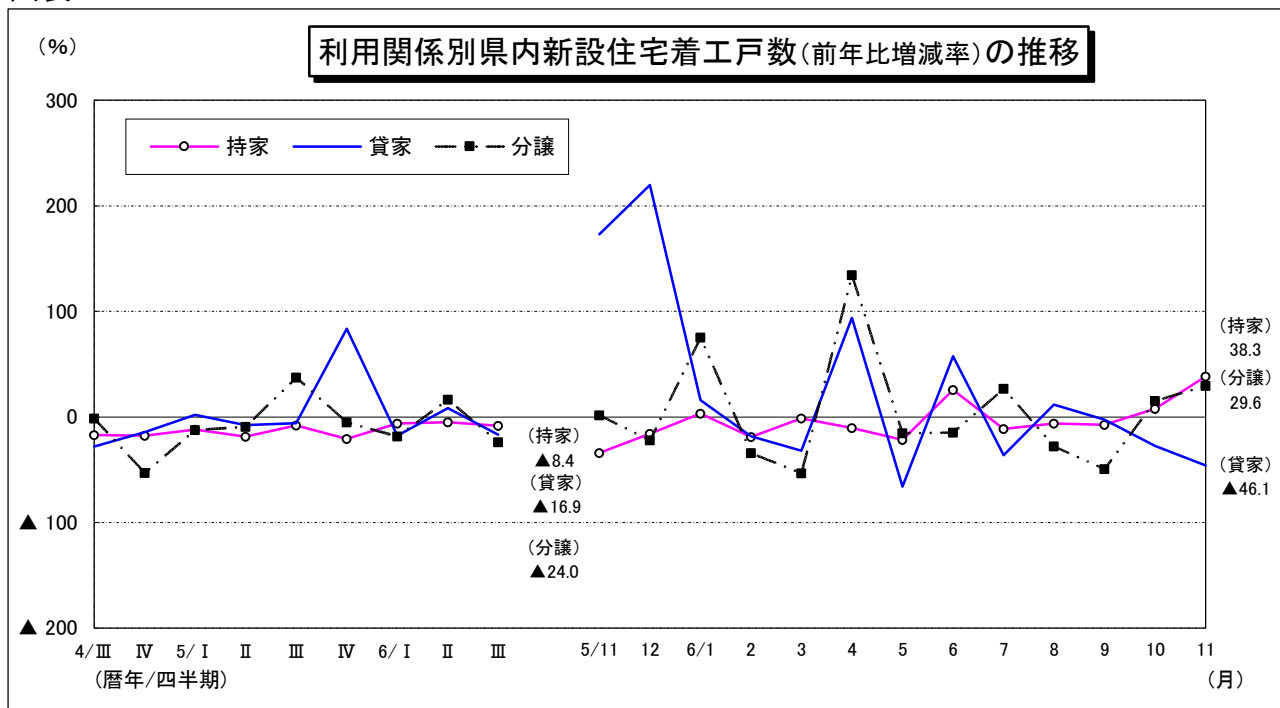
図表16



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：国土交通省]

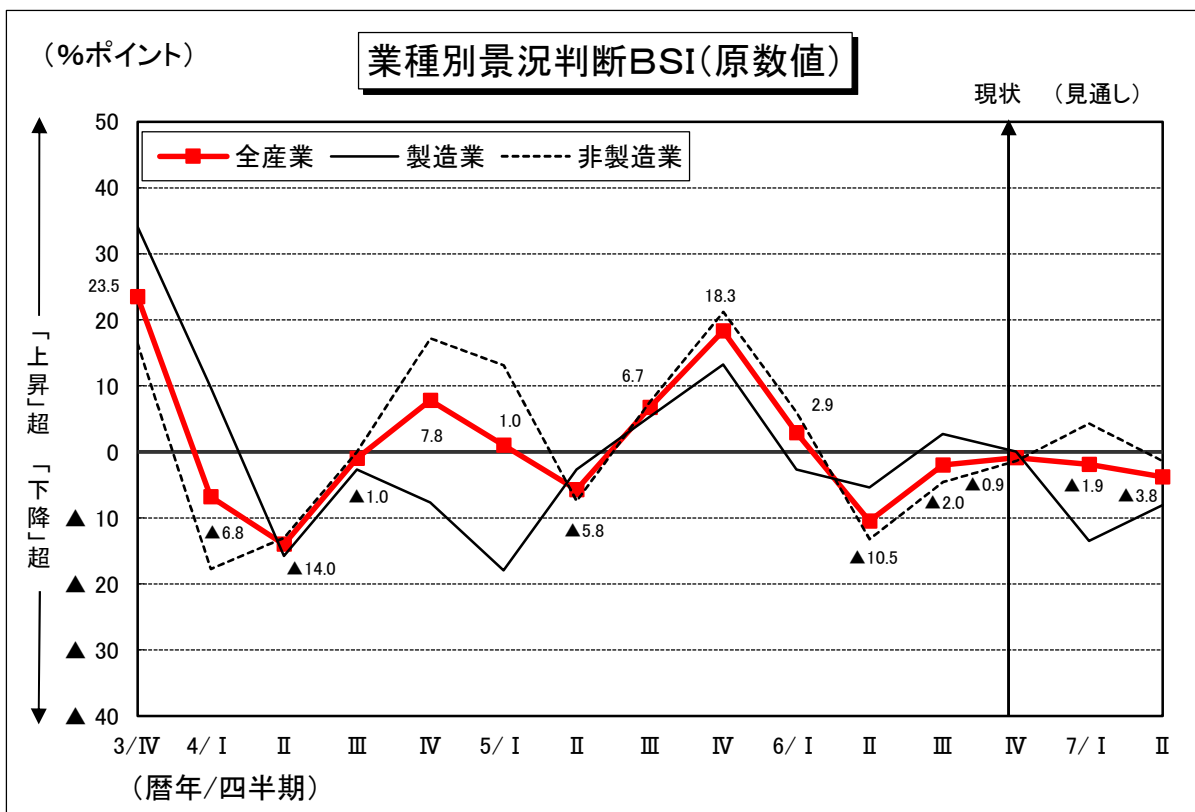
図表17



[資料：国土交通省]

## 7. 企業の景況感

図表18



(注) グラフの数値は全産業のBSIを表記している。

### 景況判断BSI (前期比「上昇」－「下降」の企業数構成比)

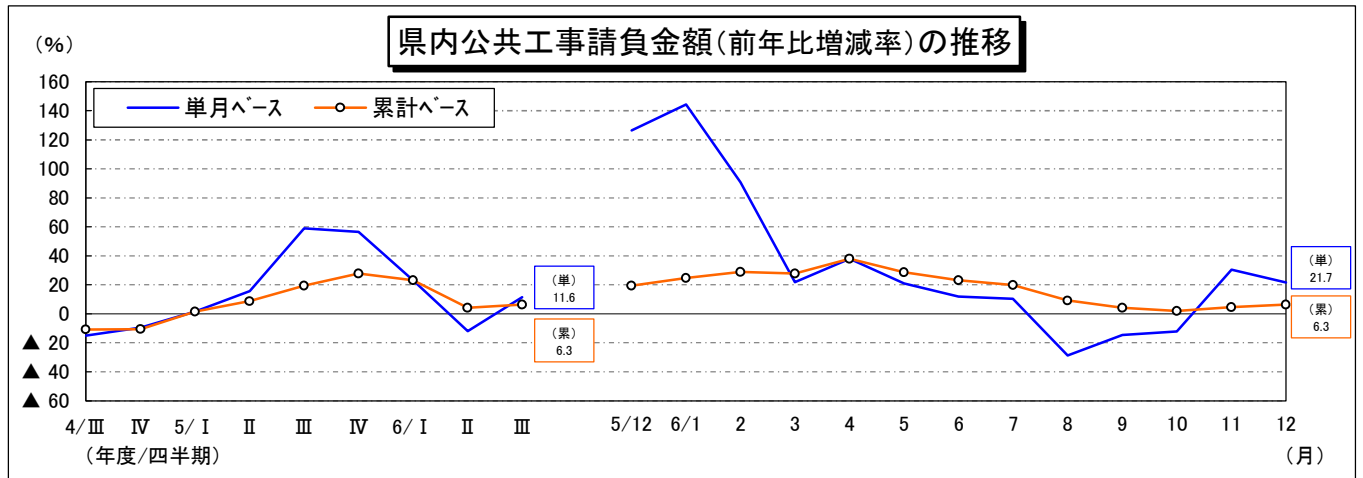
(単位：社、%ポイント)

		回答 企業数	6年7-9月 (前回調査)	6年10-12月 (現状判断)	7年1-3月 (見通しI)	7年4-6月 (見通しII)
全産業	全産業	106	▲ 2.0	▲ 0.9	▲ 1.9	▲ 3.8
	製造業	37	2.7	0.0	▲ 13.5	▲ 8.1
	非製造業	69	▲ 4.6	▲ 1.4	4.3	▲ 1.4
規模別	大企業	14	▲ 7.1	21.4	7.1	▲ 7.1
	中堅企業	38	▲ 8.1	0.0	▲ 2.6	7.9
	中小企業	54	3.9	▲ 7.4	▲ 3.7	▲ 11.1

[資料：宮崎財務事務所 法人企業景気予測調査 (6年10-12月期調査)]

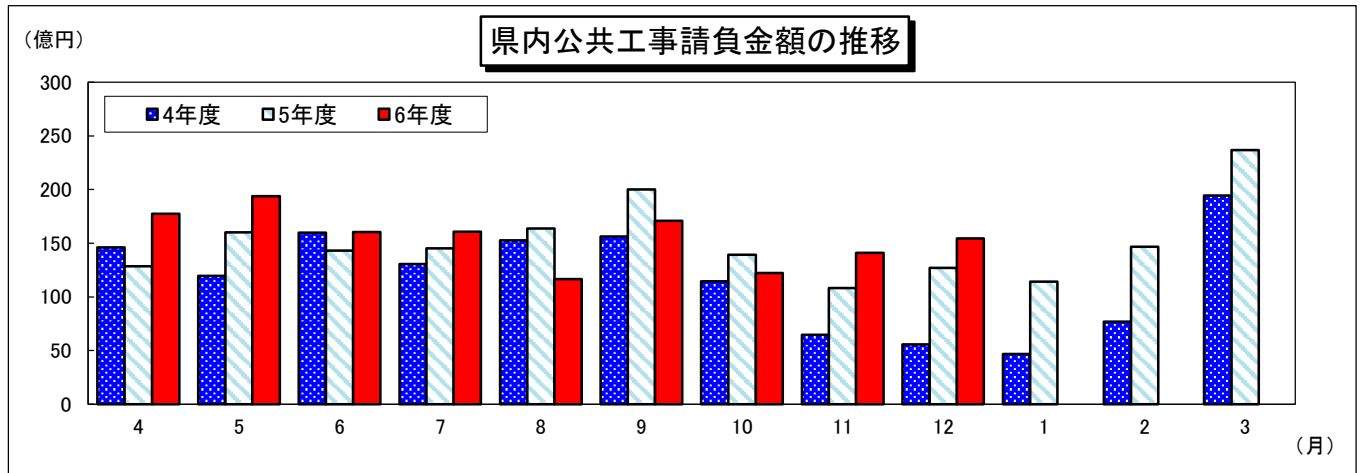
## 8. 公共事業

図表19



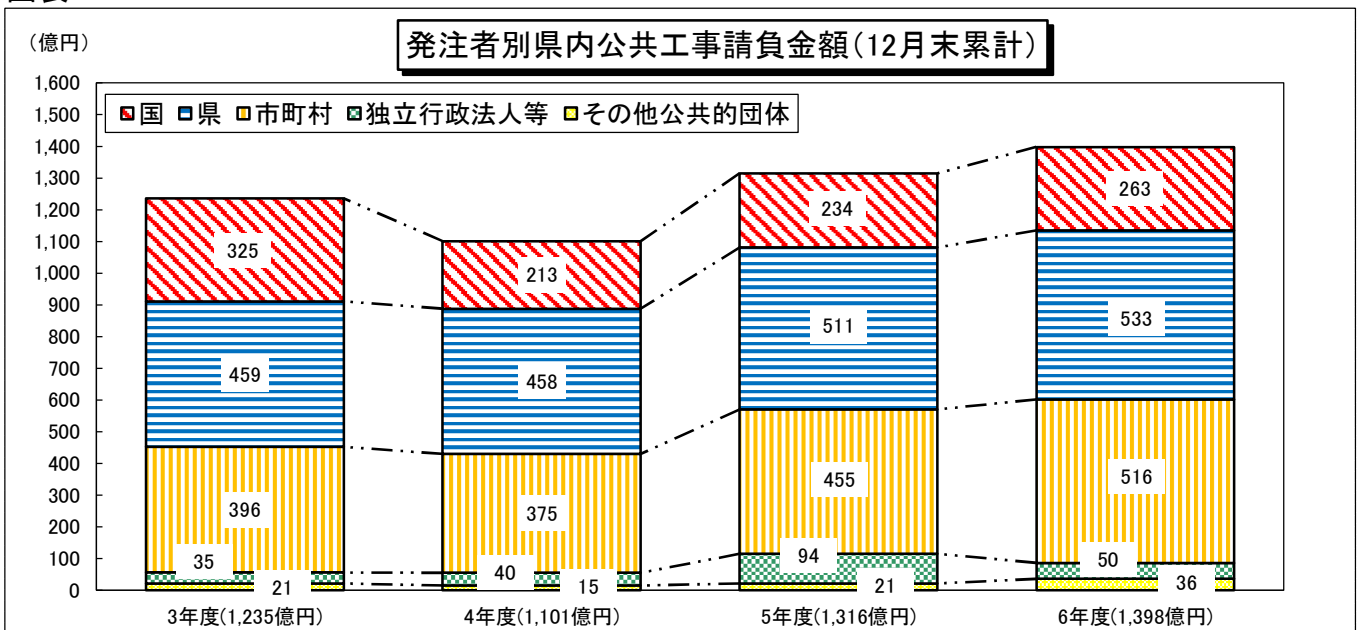
[資料：西日本建設業保証株式会社ほか]

図表20



[資料：西日本建設業保証株式会社ほか]

図表21

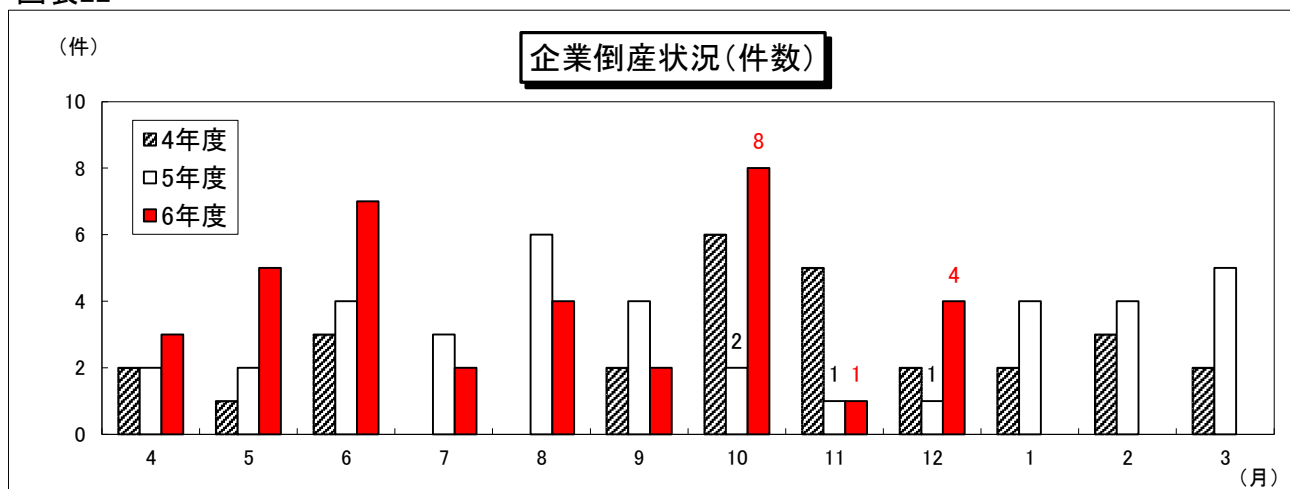


(注) 端数処理(四捨五入)の関係で、合計金額が一致しないことがある。

[資料：西日本建設業保証株式会社ほか]

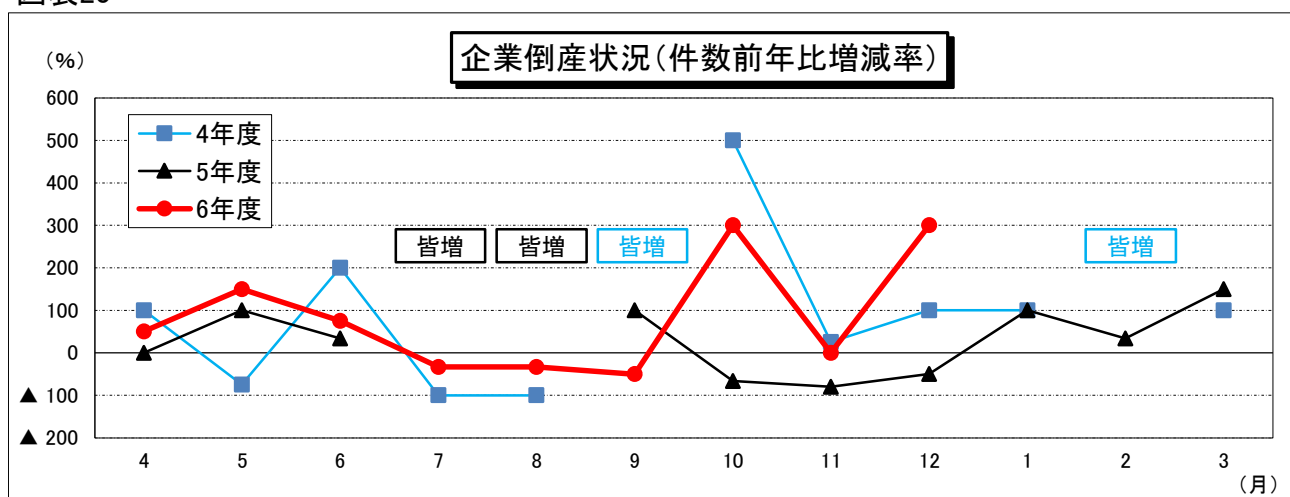
## 9. 倒産

図表22



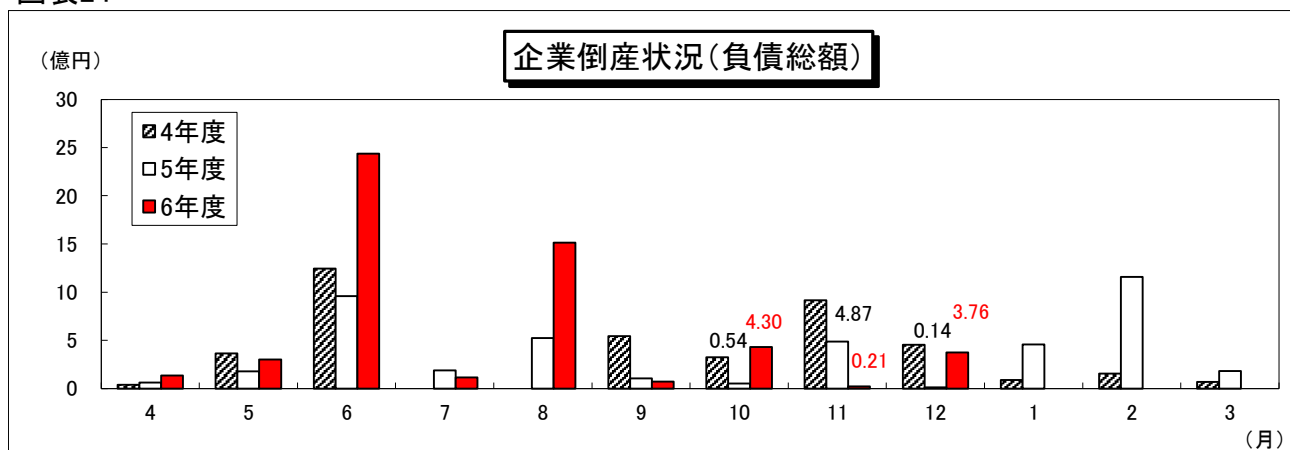
[資料：東京商工リサーチ]

図表23



[資料：東京商工リサーチ]

図表24



[資料：東京商工リサーチ]